

# 環境教育「まず、今できることから」

発行所：地域環境活性化協議会  
編集者：代表幹事 高橋賢一  
連絡先：市民活動支援センター  
尾張旭市波川町三丁目5番地7  
(波川福祉センター内)  
TEL0561-51-2878



積山荘  
ありがとう  
みんな  
協力あり  
がとう  
楽しいな  
島山村  
また来  
たいな  
あじふな  
し

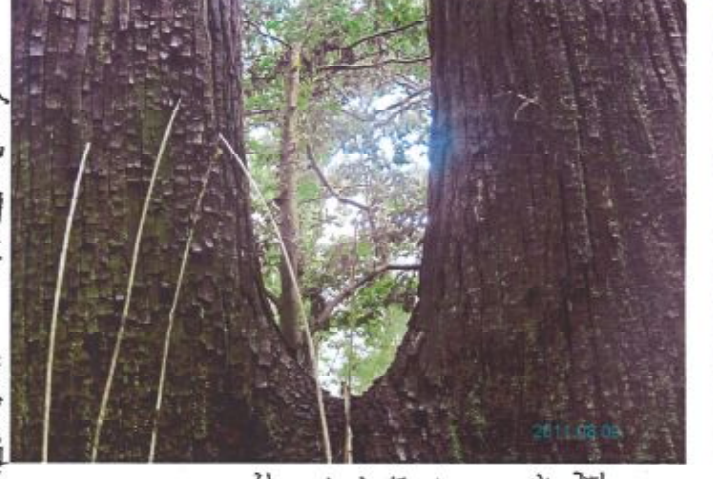
宮沢賢治は、母から「人に尽くす人に在れ」と言われ育ち、実際に農村の生活向上のために献身的に働きました。  
優れた文学を成しただけでなく、農学者であり、仏教にも詳しく、学んだ知識を人の役に立てるために実践し続けた。「河モヌカ」とスローガンにして、強い体と奉仕の精神を持つようになると子どもたちも志高く駆り立てることを、賢治は決して望まない。なせなら、この詩は賢治が病床で手帳に書いた

動物や自然を愛する心は、幼少時からの触れ合い体験が肝心だ。そのために、親はどうか環境を工夫してあげればいいだろうか。

**動物や自然を愛する心**  
はるにはとていじり、なつにはひかりのうらあきにはこのころ、ふゆにはりさくといふなりと、いんばをたぐひたり。



自分自神の弱みで、あり心のつぎやきだからです。この詩が書かれた昭和2年の



賢治は過労から寝たきりの生活と、余儀なくされた自分の体すくすく心いままにいらなくなってきた。病床で手帳に書き付けた。

樹齢六〇〇年の杉、堂々と一本から別れて、久し振りに心の震動が、鳴りはじめた。奈良飛鳥に旅に去る時と同じいので、この杉を見た。圧巻である。迫力充分。  
何が古代の息づきが流れてくる。  
熊野神社の拝殿

熊野神社の裏山の太木に挨拶する子供達  
「生命のいのち、万物に存在の価値の教育こそあり。」  
熊野神社の本堂を登り、階段を登る。



気持ちを奮い立たせようとしたのか、希望を捨てたのか、その後の健康を取り戻すことが出来ず、病二モヌカは、家族の手で埋葬される。

